

“本にして残したい”と

思っていていらっしゃる方に――

記念本製作の手引き

柏艚舎 編



絵画



〈生け花・アレンジメント〉



“本にして残したい”と
思っていたらっしやる方に――

記念本製作の手引き

柏艦舎編

まえがき

俳句や短歌、書に絵画、エッセイ、自分史など、自分の作品を一つにまとめて後々まで残したい、家族や友人知人に見てもらいたい、という思いは、創作者に共通の願いだと思います。

本小冊子は、様々な創作活動に関わっておられる方々が、作品を一冊の書籍にまとめるに際しての一例を示した手引き書となっております。すでにご存知の内容もあるかと思われませんが、御一読いただければ幸いです。

また、本小冊子自体が、基本的なオンデマンド印刷による書籍の仕上がりを示す実例となっております。表紙の上にカバー（PP加工）を巻いた、ソフトカバー（並製本）という様式です。

書籍製作に関して委細を尽くしているわけではございませんので、もしご不明な点などがございましたら、弊社までご連絡ください。

皆様が満足のゆく書籍を手になさいますよう、願っております。

(株)柏艚舎 編集部

目次

口絵 絵画／生け花

まえがき

記念本が出来るまでの基本的な流れ

各ジャンルのレイアウト例

俳句・川柳 / 短歌 / 詩

書道 / エッセイ / 自分史

記念本製作時における一般的なオプション

〈画像補正の一例〉

記念誌制作に掛かる費用

様々なフォント

書籍製作の一般知識

〈各部名称〉

記念本が出来るまでの基本的な流れ

【依頼者の作業】

●原稿の準備

まずは全ての原稿を手元に揃えなくてはなりません。

パソコンのワードや一太郎といったワープロソフトの使用が可能ならば、テキストデータ（パソコン上で作成したデータ）で仕上げた方が良いでしょう。

パソコンが苦手な方は、手書きの原稿でも問題ありませんが、テキストデータへの打ち込み代金が発生することがあります。

書道や絵画といったジャンルの書籍は、記念本に入りたい作品の写真を揃えておきましょう。



●出版社・印刷会社への見積もり依頼

原稿が揃ったら、出版社などに見積もりを依頼します。

完成品のイメージが出来ていなくても、出版社や印刷会社へはおおまかな希望を伝えるだけで、見積もりを作成することは可能です。

『○○のジャンルで、○○ページぐらいの書籍を○○冊作りたい』というだけでも、他に必要なところは担当が導いてくれるでしょう。

パンフレットやインターネット上で料金表を提示している出版社や印刷所もありますから、おおよその費用として参考にするのも良いでしょう。その際には、校正原稿が何回出るのか、どのようなオプションがあ

【出版社・印刷所の作業】

見積もり依頼を受けた出版社・印刷所は、早ければ当日、遅くとも数日のうちにお見積もりを依頼者に発送します。

印刷上の特殊加工や特殊用紙、ライターによる代理執筆、書店での販売などを依頼者が希望された場合は、お見積書の完成まで時間がかかるかもしれません。

るのかも確認しておきましょう。

←

● 出版契約

見積もりに問題が無ければ契約となります。

←

● 原稿入稿からゲラ作成へ

手元に揃えた原稿を担当者に渡します。

テキストデータのみの場合は、メールでの入稿も通常可能です。

自分で書籍レイアウトまで作成できる方が印刷所に入稿する場合には、契約書等が必要としないこともあります。

出版社の担当者は、お預かりした原稿を基に、レイアウトを組み、校正ゲラを作成します。

その際に、紙焼きの写真などスキャニングが必要な物や、手書き原稿のテキスト

ト打ち込みなど、必要に応じて対処します。

全体のページ数や図表の数などにもよりますが、初校ゲラが完成するまで数日から二週間程度かかります。

● カバー等、付き物の作成
依頼者はどのようなイメージのカバーや表紙にした
いかを担当者に伝えます。
手持ちの写真や絵を使用することもできますし、漠

←

然としたイメージだけ伝えても問題ありません。

←

依頼者の希望に応じてカバーなどの付き物のデザインならびに校正ゲラを作成します。
カバーの付かない書籍の場合は、表紙をデザインします。

この作業は、本文の校正ゲラを作成すると同時に進行します。

●著者校正

出版社もしくは印刷所で作成した校正ゲラを著者が修正・校正します。

この校正作業を何度繰り返し返すかは、出版社によって異なります。



●印刷所へ入稿

著者校正での修正箇所がなくなれば、印刷所へ入稿となります。

作成部数により、オンデマンド（高性能レーザープリンター）印刷か通常印刷かが基本的に決まっています。

少数数の印刷はオンデマンド印刷で行なわれること

著者校正の完了を受け、印刷所へ入稿するデータを作成します。

オンデマンド印刷では入稿から製本完成まで二週間程度、通常印刷では完成まで三週間程度が平均的にかかります。

が多く、印刷所へ入稿した後は、書籍の完成を待つのみです。

通常の輪転機による印刷に比べると、オンデマンドによる印刷は、少ない部数を安く作るのに向いています。



●書籍完成

完成品を受け取ります。

赤とんぼ 筑波に雲も なかりけり

夏川を こすうれしさよ 手にぞうり

花散るや 耳ふつて馬の おとなしき

万緑の 中や吾子の齒 生え初むる

中村草田男

冬の浅間は 胸を張れよと 父のごと

加藤楸邨

※様々なフォントから依頼者のイメージに合ったものを選びます。

レイアウト：ページ2行取り、名付き
フォント：HG 行書体 30 Q
A-OTF リュウミン Pro 23 Q

レイアウト：ページ3行取り
フォント：DF 華康明朝体 27 Q
正岡子規、与謝蕪村、村上鬼城

※『27Q』の『Q』はフォントのサイズです。『Pt』表記ではおよそ『19Pt』になります。一般的な書籍のフォントサイズは、13Q前後です。

赤とんぼ 筑波に雲も なかりけり

夏川を こすうれしさよ 手にぞうり

花散るや 耳ふって馬の おとなしき

万緑の 中や吾子の齒 生え初むる

冬の浅間は 胸を張れよと 父のごと

赤とんぼ 筑波に雲も なかりけり

夏川を こすうれしさよ 手にぞうり

花散るや 耳ふって馬の おとなしき

万緑の 中や吾子の齒 生え初むる

レイアウト：ページ4行取り、上下均等幅
フォント：DCP麗楷書 27 Q
正岡子規、与謝蕪村、村上鬼城、中村草田男

レイアウト：ページ5行取り、上下均等幅
フォント：DFP平成明朝体 27 Q
正岡子規、与謝蕪村、村上鬼城、中村草田男、加藤楸邨

〈短歌〉

※漢字に振り仮名を振ることも可能です。

石^{いわ}ばしる たるみの上のさわらびの

萌^もえいづる春になり^にけるかも

こどもらと 手まりつきつつ この里に

あそぶ春日は くれずともよし

たわむれに 母を背負^いてそのあまり

軽^{かろ}きに泣^なきて 三歩あゆまず

レイアウト：ページ2 歌取り
フォント：HG 教科書体 25 Q
志貴皇子、良寛

レイアウト：ページ1 歌取り
フォント：HG 正楷書体-PRO 25 Q
石川啄木

※手書きのイラストや写真を配置することも可能です。



石^{いわ}ばしる たるみの上のさわらびの

萌^もえいづる春になりにつけるかも

こどもらと 手まりつきつつ この里に

あそぶ春日は くれずともよし

たわむれに 母を背負いてそのあまり

軽^{かろ}きに泣きて 三歩あゆまず

石^{いわ}ばしる たるみの上のさわらびの 萌^もえいづる春になりにつけるかも

こどもらと 手まりつきつつ この里に あそぶ春日は くれずともよし

たわむれに 母を背負いてそのあまり 軽^{かろ}きに泣きて 三歩あゆまず

石がけに 子ども七人こしかけて ふぐをつりおり 夕焼け小焼け

親馬の道をいそげばきりにぬれて子馬も走る いななきながら

レイアウト：ページ3歌取り
フォント：HG行書体 25 Q
志貴皇子、良寛、石川啄木

レイアウト：ページ5歌取り、上下均等幅
フォント：小塚明朝 Pro 19 Q
志貴皇子、良寛、石川啄木、北原白秋、橋田東声

のちのおもひに

夢はいつもかへつて行つた 山の麓のさびしい村に
水引草に風が立ち

草ひばりのうたひやまない
しづまりかへつた午さがりの林道を

うららかに青い空には陽がてり 火山は眠つてゐた
——そして私は

見て来たものを 島々を 波を 岬を 日光月光を
だれもきいてゐないと知りながら 語りつづけた……

夢は そのさきには もうゆかない
なにもかも 忘れ果てようとおもひ
忘れつくしたことさへ 忘れてしまったときには

夢は 真冬の追憶のうちに凍るであらう
そして それは戸をあけて 寂寥のなかに
星くづにてらされた道を過ぎ去るであらう

初恋

まだあげ初めし前髪まへがみの
林檎りんごのもとに見えしとき
前にさしたる花櫛はなぐしの
花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅うすくれなゐの秋の実みに
人こひ初めしはじめなり

わがこゝろなきためいきの
その髪の毛にかゝるとき
たのしき恋の盃さかづきを
君が情なさけに酌くみしかな

林檎畑の樹この下に
おのづからなる細道ほそみちは
誰たが踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

※ページの背景にイラストを使
うこともできます。

レイアウト：見開き 1 作品

フォント：A-OTF 新正楷書 CBSK1 Pro 20 Q

島崎藤村

母儀諸
姑伯叔

幾人同入謝宣城
未及酬恩隔死生
唯有夜猿知客恨
嶧陽溪路第三聲

※色調反転のような加工も可能です。

ラジオと読書

先日、某ラジオ局で三十分のインタビューを受けた。テーマは、北海道で何をしているのか、ということだが、読書に関して多くの時間が割かれたような気がする。そのおかげで、自分でも我が読書傾向が整理できたのは興味深かった。

出版人として、当然のように本好きではあるものの、私はどうも偏った読書をしてきたようだ。例えばの話、文芸翻訳家なのだからさぞかしたくさんの原書を読んだのでしょね、と訊かれるが、正直なところ、私は仕事以外で原書を読んだことがない。もっぱら日本語で書かれた本ばかりである。

十代では、太宰治さんの本に感服した。それは、両親が心配するほどの傾倒ぶりだったようだ。しかも、私は楽しむために本を読むのではなく、自分の人生、つまり生き方に取り入れたいという強い欲求がある。したがって、太宰さんの言う「善き事をするときには、謝りながらしなければな

らない。なぜなら、善き事ほど相手を傷つけるものはないのだから」などという一文に接すると、魂が震えるほどに感動し、そのように生きようと決意するのだ。七十三歳の今年までそのことを実行してきたかどうかは考えたくないが、その思いにいまだに縛られていることは間違いない。

そして三十代は、三島由紀夫さんだ。私自身、中学からずっと剣道をやってきたこともあり、二十代では剣道家を目指したぐらいたから、当然、三島さんには関心があった。そのあげくに、楯の会への急接近である。私はすでに大学を卒業していたので会員にはなれなかつたため、当時神奈川大学に在

※ご希望の写真を挿入することも
可能です。



楯の会に送り込むことに成功した。実際はそうでなくとも、気持ちはもうすっかり会員気分だったのである。そして「あの日」には、山本は現場に行っていないのかと、友人たちから何本も電話が入ったほどだった。

さて、五十代に入ってから、もっぱら丸山健二さんである。丸山さんの本以外に読む必要はないと公言するくらいだし、大学で翻訳法を教えたときには、夏休みの宿題は決まって、丸山さんの作品の感想文を書くことだった。百パーセント近く、初めて丸山さんの作品を目にする学生ばかりで、彼らの感動と驚愕に満ちた感想文を読むのが私の最大の楽しみだった。

私はそもそも、北海道に居を移したのは、丸山さんの著作に後押しされて、自給自足の人生を送るためだった。それが出版社を始めるなどしてすっかり遠回りをしてしまった。

しかしよいよ、あと数年で（もし生きていれば！）、待望の老後をスタートさせる準備が整ったのである。

我が人生のゴールデンタイムは最晩年にやってくる！ 私が三十代から口にしていたことが本当に実現するかもしれない。まっこと、年を取っている暇などないのである。

かように、私の読書傾向はいつも、狭く、深くだった。それがいいことなのかどうかはまったくわからない。したがって、他人に勧められるような読み方ではないだろう。さらに言えば、そういう本の読み方をする人間が出版社を経営するのはいかなものかとも思う。しかし今更、生き方を、読書の仕方を変えることなどできるわけではない。

ああ、一刻も早く、晴耕雨読の世界に俺を突き飛ばしてくれないものだろうか！

レイアウト：ページ 44 字× 16 行取り

フォント：小塚明朝 Pro

柏船舎代表：山本光伸ブログより抜粋

四 長男誕生

勝郎さんが遠洋航海に出たころ、妊娠がわかりました。あの当ても、お嫁さんは実家に帰って出産するとうことが多かったようです。でも、私は、あえて実家に帰らず、佐世保で赤ちゃんを産むことにしました。

「ここで死ぬつもりですから、お母さん、よろしくお願いします」

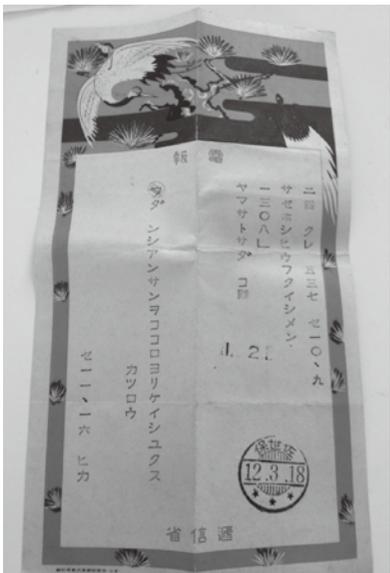
私の決心を、サクお母さんはしっかりと受け止めてくれました。私の場合、実家といっても、静子さまは義理の関係。父は満州に出征中、まだ小さな弟、昭彦の世話もあったので、これ以上迷惑はかけられ思っていました。

初めての子供が生まれる頃、実家では、少々問題が起こっていました。大阪の歯医者さんに嫁いで玉子が戻ってきていたのです。姉の主人の歯医者さんは、病気をしたのをきっかけに痛み止めか何か毒になってしまい、姉に乱暴を振るうようになったそうです。それで、姉は怖くなって逃げ帰ったのれも、実家の飯塚家ではなく、逗子の古川の母の元へ。そんなこともあり、実家の静子お母さんにはこともありました。

昭和十二年（1937年）三月十七日、初めての子供を無事出産しました。佐世保の自宅で、御産呼んでの出産です。夫の勝郎さんはまだ遠洋航海中、航海先から祝電を送ってくれました。

「ダンシアンサンヲコロヨリケイシユクス カツロウ」

三月十八日の日付。



〈航海中の勝郎さんから届いた電報〉

「カツヨシトケツテイサレタシ」

三月二十一日の日付。

勝郎さんの名前と、お父さんの義郎さんの名前前から、名付けてくれたようです。「勝義」は、とても優しい目をしたかわいい子でした。

山本家の菩提寺は、本家のある千綿ちわたにありました。佐世保から長崎に行く途中に、千綿という小さな町があります。勝郎さんのお父さん義郎さんは、もともとこの千綿の農家の長男だったそうです。しかし、跡を継がずに警察官、さらに銀行員になってしまいました。そこで、勝郎さんのお兄さんである三郎さんが子供のころ、その跡を継ぐため、千綿の本家に行ったそうです。

それには少々事情もあったといえます。サクお母さんは長女の富美子さんを産んだ後に、長男三郎さんを出産。その時、お乳があまりでなかったため、千綿の実家の知り合いに三郎さんの乳母を頼んだそうです。ところが、戻ることも乳母に三郎さんがすっかりなついてしまっ、サクお母さんに抱かれようとしなかった。そのために、跡継ぎのなかった千綿の実家で三郎さんを引き取るようになったというのです。勝郎さんはそのあとに生まれた二男。山本家にも、複雑な人間関係があったということ、あとで知らされました。

約半年の遠洋航海を終え、勝郎さんが自宅に戻ってきました。勝郎さんは、長男勝義の誕生を本当に喜んで



〈海軍大学卒業式〉

海軍では、参謀になるためには、海軍大学を出なければなりません。勝郎さんは、普段の任務の合間に、勉強を続けていました。私にできることは、勉強に専念できるようにすること。子供が泣かないよう、外に連れてあやすこともありました。そして、海軍大学に入学、海軍大学が目黒にあったので、今度は目黒の奥沢へ一緒に移りました。昭和十四年（1939年）、ついに第二次世界大戦が始まりました。軍内ではいろいろあったと思いますが、私は一切聞いていません。勝郎さんは、外出は基本的に背広だったので、送り出すときも、さほど緊迫感がなかったの



〈卒業アルバムの写真〉

五 海軍大学へ

昭和十三年（1938年）、勝郎さんが海軍工機学校の教官になり、横須賀勤務になりました。横須賀には、私も勝義を連れて一緒に暮らすことになりました。九州からの移動は、軍人の勝郎さんは二等列車、私と勝義は三等列車と分かれて乗りました。三等はいろんな人が乗るので、何か聞かれるといけないからというのが。そんなの二等でも同じだと思えますけどね。勝郎さんは、しょっちゅう三等車に顔を出しては「大丈夫か」と心配してくれたものです。



〈山本義郎お義父さんと長男勝義〉

くれました。ただ、親子の務に就くことになりました。

※文章内容に合った位置に写真を挿入し、レイアウトを整えることができます。

た勝義も連れて見送りに行きました。横須賀は、実の母舟セの実家もあり、懐かしい場所でもありました。

こうして、勝郎さんがまた家を留守にすることが多くなり、そのためこんなことがありました。久しぶりに自宅に帰った勝郎さんを見て、まだ小さな勝義がこう言ったんです。

「あのおじさん、だれ？」

自分の父親に、まさかこんなことを言うなんて。本当に困りました。

記念本製作時における一般的なオプション

【レイアウト作成】

本文中の段組や文字サイズ、フォントの種類から、写真やイラストの配置など、書籍内容に合ったレイアウトを作成する作業です。

通常、書籍作成の際には必ず含まれる作業となるため、料金表を掲示している出版社や印刷所の多くは、このオプションをあらかじめ含めた料金を示しています。

書籍内容によって料金は多少変動します。

【テキストデータ入力】

手書き原稿やプリントアウト原稿を、パソコンでページレイアウトするためにテキストデータへと打ち込む作業です。

費用は出版社によって異なります。また、手書き原稿かプリントアウト原稿かで費用が変わることもあります。

一般的に一文字一円程度とお考えください。

【写真等データ取り込み、および補正】

本文中や口絵、カバーに使用する、現像された写真や絵などのスキヤニングから画像の補正までを行なう作業です。通常、一枚数百円程度で出版社によって変わりますが、数枚ならばサービスしてくれることもあるでしょう。

日焼けによる退色や折り皺なども、ある程度修復することが可能です。

(一例を36ページに掲載しております)

【図表作成・イラスト作成】

本文中に入れる図表やイラストを作成する作業です。図表・イラストのサイズや複雑さによって費用は異なります。

概算ですが、棒グラフや円グラフのような単純な物なら一つあたり数百円で作成可能です。イラストは依頼者が希望するイラストレーターの相場によりかなり変わってまいります。

【文字校正・内容校正】

書籍本文に関して出版社の校正スタッフが校正を行なう作業です。文字校正は、誤字や脱字の

チェック、表記の統一を行ないます。内容校正は、ストーリー展開や文章表現、事実確認等、内容に関して校正を行ないます。

書籍のジャンルや専門性によって校正費用は異なりますが、専門の校正者が全体を通して行なうため、数万円から数十万円はかかってまいります。

また、ラテン語や科学式など、校正を行なうこと自体が難しい場合もございます。

【ライター代理執筆】

記念誌を作成したいものご自身で文章を書くのが苦手な場合など、ライターに任せることも可能です。28ページに例として掲載している『仲良しふたり』などは、ライターが依頼者に取材を行なって作成したものです。

自分史などの作成で使用される方の多いオプションとなります。また自分史を作成する上で、当時の時代背景のみライターに取材して貰いたいなど、本文中の部分部分への対応も可能です。

通常は出版社がライターを抱えているため、こういった文体のライターに取材をお願いしたい、といった希望を出すこともできます。

費用はピンキリのためあらかじめ出版社に確認することをお勧めいたします。

【書店流通】

内容の審査が必須となりますが、制作した書籍を書店に並べることも可能です。

また、出版社の名前が冠されるため、内容校正・文字校正も必要とする出版社が大部分です。

ただし、実用書ならばまだ可能性はありますが、個人の自伝や作品集は、よほどのことがない限り、書店で話題になることはございません。書店流通に関しては、他にも様々な決まりごとがあるため、出版社と事前にじっくりと話し合わせることをお勧めいたします。

【電子書籍化】

パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読むための書籍データを作成するサービスです。当然、データをCDなどのメディアやメール添付などで他の人に贈ることもできます。

実際の書籍を作成する場合、印刷所への入稿データを作成する過程で電子書籍データに近い物が出来上がってまいりますので、費用的には1〜2万円で作成することが可能なのが多いです。



デジタルカメラの写真ですと、暗くて見えなかった部分も、ある程度見えるように補正することが可能です。



上の画像は紙焼きの写真のスキャンしたものです。丸の中のような皺、汚れを修正して、全体的に暗い写りを補正すると、下の画像のようになります。デジタルカメラで撮った写真などは、より顕著に修正できます。



記念誌制作に掛かる費用

【費用が発生する箇所】

記念誌を作成する上で費用が発生する箇所は大きく分けて『本文レイアウト作成』と『各種付き物作成』、『印刷製本』の三か所となります。

『本文レイアウト作成』では、依頼者からいただいたテキストデータや画像などを元に、見栄えが良くなるように編集者が本文ページを作り上げます。本文レイアウト作成に際して、32ページで紹介しました様々なオプションを使用することによって、ご希望通りの書籍に仕上げてまいります。

次に『各種付き物作成』に関してですが、『付き物』とは、カバーやオビ、表紙、別丁扉（本扉・本文とは別に挟まれる扉）などを指します（44ページ）。依頼者の思い出の写真や作品をデザインするなど、希望に沿ってそれぞれの付き物を作成します。また、カバーや表紙にはPP加工（フィルム保護加工）などを行ない、書籍の耐久性を上げます。

『印刷製本』は、出版社の手を離れ、印刷所からの出来上がりを待つ段階となりますので、それまでに全てを完全に仕上げます。

【柏艦舎での費用例①】（本文テキストデータ入稿時）

体裁：46版（128×188mm）、ソフトカバー

本文：112ページ、モノクロ

部数：50部

カバー：フルカラー、PP加工

使用用紙：本文（書籍用紙）、カバー（コート紙）、表紙（アート紙）、見返し（色上質紙 or タント紙）

備考：デザイン部によるオリジナルカバー作成
校正ゲラ出し2回

総額：177,500円（税別）

内訳：本文レイアウト作成〔75,000円〕

カバー等付き物作成〔20,000円〕

印刷製本代〔82,500円〕

【柏艦舎での費用例②】（本文手書き原稿入稿時）

体裁：46版（128×188mm）、ソフトカバー

本文：208ページ、モノクロ

部数：200部

カバー：フルカラー、PP加工

使用用紙：本文（書籍用紙）、カバー（コート紙）、表紙（アート紙）、見返し（色上質紙）

備考：デザイン部によるオリジナルカバー作成
校正ゲラ出し2回

手書き原稿テキストデータ打ち込み（6万字）

総額：410,000円（税別）

内訳：本文レイアウト作成〔117,500円〕

カバー等付き物作成〔20,000円〕

印刷製本代〔212,500円〕

テキストデータ打ち込み費用〔60,000円〕

様々なフォント

【明朝体】

文字もじモジ (小塚明朝R)
文字もじモジ (小塚明朝B)
文字もじモジ (ヒラギノ明朝4等幅)
文字もじモジ (HG明朝B)
文字もじモジ (MS明朝)
文字もじモジ (DF平成明朝体W3)
文字もじモジ (DF平成明朝体W7)
文字もじモジ (DF華康明朝体W5)
文字もじモジ (DFG極太明朝体)
文字もじモジ (A・OTF太明朝体)
文字もじモジ (A・OTF見出明朝体)
文字もじモジ (A・OTFリュウミン体R)

【ゴシック体】

文字もじモジ (小塚ゴシックL)
文字もじモジ (小塚ゴシックM)
文字もじモジ (ヒラギノ角ゴ4等幅)
文字もじモジ (HGゴシックE)
文字もじモジ (MSゴシック)
文字もじモジ (DF平成ゴシック体W3)
文字もじモジ (DF平成ゴシック体W3)
文字もじモジ (DF華康ゴシック体W5)
文字もじモジ (DFG極太ゴシック体)
文字もじモジ (A・OTF太ゴシック体)
文字もじモジ (A・OTF見出ゴシック体)
文字もじモジ (A・OTF新ゴシック体)

【その他】

文字もじモジ (ペン楷書体)
文字もじモジ (麗楷書体)
文字もじモジ (方隷書体)
文字もじモジ (POP体)
文字もじモジ (えんえん体)
文字もじモジ (ペン字体)
文字もじモジ (楷書体)
文字もじモジ (細丸ゴシック体)
文字もじモジ (勘亭流)
文字もじモジ (風雲体)
文字もじモジ (文徵明体)
文字もじモジ (北魏楷書体)
文字もじモジ (龍門石碑体)
文字もじモジ (魏碑体)

文字もじモジ (麗雅宋)
文字もじモジ (行書体)
文字もじモジ (教科書体)
文字もじモジ (行楷書体)
文字もじモジ (新篆体)
文字もじモジ (談楷書体)
文字もじモジ (超極太明朝体)
文字もじモジ (正楷書体)
文字もじモジ (クラフト遊)
文字もじモジ (寄席文字)
文字もじモジ (相撲体)

(※出版社によって使用できるフォントには違いがあります。また、フォントによって表示可能文字に違いがあります)

書籍製作の一般知識

【判型（本のサイズ）について】

書籍を製作する際にまず決定しなければならないのが、本のサイズ、つまり判型はんがたです。小説やエッセイなどの場合、一般的には四六版しやくくわく（横128mm×縦188mm）という判型が用いられています。

他に文庫本（A6版）サイズ（105×148）、新書（B40版）サイズ（103×182）、教科書や大きめの文芸書（A5版）サイズ（148×210）、四六版に近い大きさのB6版サイズ（128×182）などがあります。

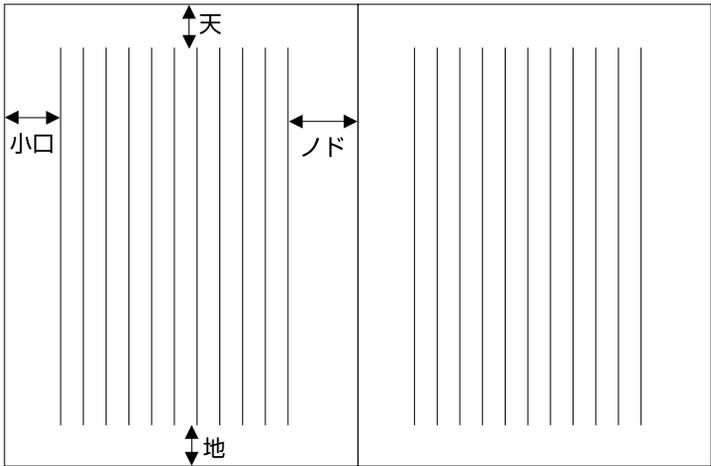
ちなみに本小冊子は四六版です。

【上製本（本製本）と並製本（仮製本）】

上製本は別名ハードカバー本とも呼ばれ、本の中身を

しっかりと糸で綴じ、別仕立てのボール紙でくるんだものを言います。より重厚さを演出するために、その上からさらに布でくるんだり、題名を箔押しする場合もあります。当然ながら、製作費は並製本よりもかなり高くつきますが、上質な感じを与えられること、および長期の保存に耐えられるという利点があります。

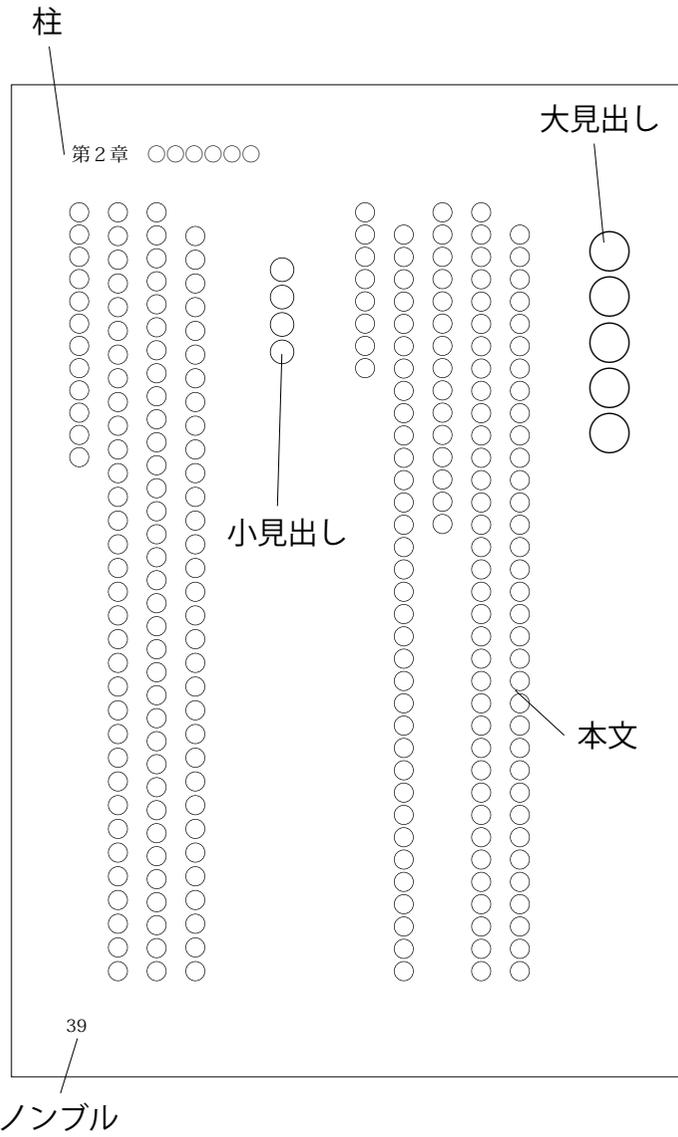
一方の並製本は一般的にソフトカバー本と呼ばれ、一般書籍の場合、本の中身と表紙を接着剤で貼り合わせる無線綴じ、もしくは、あじろ綴じという方法が用いられています。上製本に比べると、製作費がかなり抑えられます。



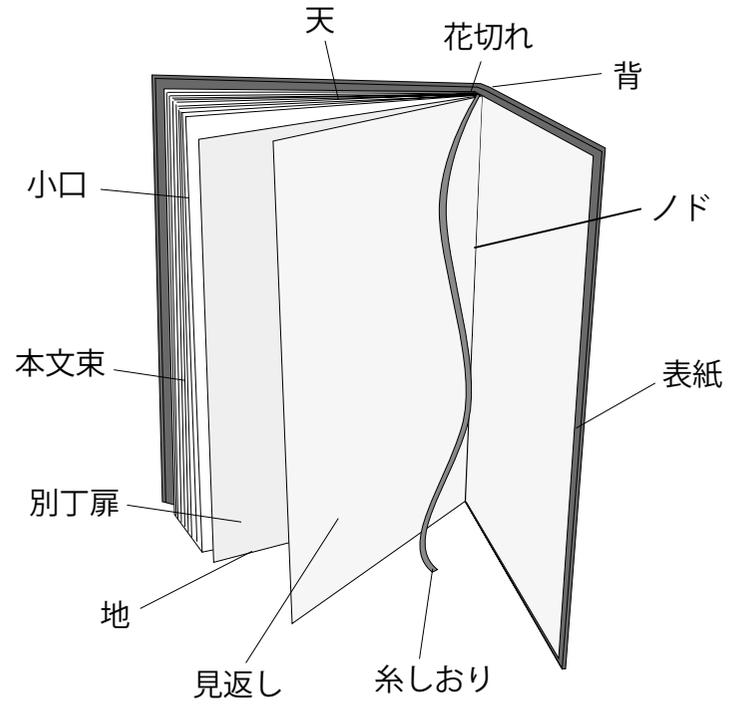
ページの余白の名称



ソフトカバーの書籍（左）とハードカバーの書籍（右）



〈各部名称〉



“本にして残したい”
と 思 っ て い ら っ し ゃ る 方 に —
記念本製作の手引き

二〇一六年十一月二日 第一刷発行

発行者 — 山本光伸

発行所 — 株式会社 柏艚舎

北海道札幌市中央区北二条西三丁目一番
電話 〓 〇一一・二一九・一二二一
ファックス 〓 〇一一・二一九・一二二〇

©2016 Hakurosyu Printed in Japan